

令和 2 年 6 月 3 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02019

研究課題名(和文) 体制形成期北朝鮮の言語規範化に関する政治文化史的研究

研究課題名(英文) Politico-Cultural History of Language Standardization in North Korea, 1945-1969

研究代表者

板垣 竜太 (Itagaki, Ryuta)

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：60361549

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、体制形成期の北朝鮮における言語規範化をめぐる政治文化史的研究であり、言語規範化のより総合的な研究(事業A)と金壽卿という研究者を中心とした事例研究(事業B)によって構成される。

事業Aについては、北朝鮮の言語規範化プロセスに関して、1945年以降の北朝鮮の識字運動、漢字撤廃、正書法改革、言語浄化が一続きのものであり、したがって総体的に見る必要があるということが明確になった。

事業Bについては、金壽卿という一人の言語学者を中核に据え、学術史・政治史・個人史が有機的に結合した「全体史」を描き出すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、言語規範化の個別論点をつなぐ全体的な像を、新資料に基づき、マクロ(事業A)・ミクロ(事業B)の両視点から描き出す点において研究水準を1段階高めるものである。その際、体制形成期の北朝鮮の言語に関わる問題を、単に言語学的な関心からのみではなく、一つの政治文化史として構築する点に学術的な意義がある。

また、体制形成期の言語学・言語政策において何が取捨選択されたのかを明らかにすることで、南北朝鮮間および北朝鮮と他の社会主義諸国の間に、言語や政治文化の違いが生じた原因が究明できる。その意味において本研究は、今日の北朝鮮の内在的理解にも資することができるという社会的意義も有している。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we have explored a politico-cultural history of language standardization in North Korea, 1945-1969. This project has been constituted with two sub-project: a more general research on language standardization (sub-project A) and a case study of a linguist Kim Sugyeong (sub-project B).

In sub-project A, we have established that the literacy campaign, the abolition of Chinese letters, the orthographic reform and the "language purification" after 1945 should be understood as a closely connected series of language standardization process in North Korea.

In sub-project B, we have been able to demonstrate a "total history" of intellectual, political, and personal history, through drawing a life history of Kim Sugyeong.

研究分野：朝鮮近現代社会史

キーワード：北朝鮮 言語学 言語政策 政治文化史

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の背景と経緯

研究分担者のコ ヨンジン(金永鎭)は、もともと北朝鮮(1948年以降は朝鮮民主主義人民共和国、以下「北朝鮮」と総称する)の漢字廃止、識字政策、規範文法、辞書編纂など、北朝鮮の言語規範化に関わる研究をおこなっていた。また、研究代表者の板垣竜太は、科研費プロジェクト等を通じて北朝鮮社会研究を進める過程で、金壽卿という言語学者の遺族と出会い、政治文化史的研究を進めることになった。この2名はともに金壽卿についての国際シンポジウムを2013年に企画し、その成果を2015年に共編著として刊行した。

本研究はこうした先行事業の延長線上で、それをより発展させたプロジェクトである。先行する事業において金壽卿の生涯や業績を国際的・多角的に検討した結果、彼が言語学や言語規範化に果たした役割がそれまで知られていた以上に中心的であり、彼を軸にすると北朝鮮が独自路線へと向かうプロセスが明確になるという見通しが得られた。と同時に、これまでに発表された言語規範化に関する諸研究が資料発掘の面において大幅に不足しており、まだ調査研究すべきことが多く残されていることも分かった。そこから、そうした諸資料をより系統的に調査すれば、研究水準を一段階上げられるという確実な展望を得たのである。

(2) 先行研究の背景

社会主義圏の言語と国家・民族の関係については、1970年代からソ連やモンゴルを対象とした田中克彦らの先駆的な業績があり、本研究もこの問題関心を受け継いでいるが、こうした研究が北朝鮮を対象として深まっているとはいえなかった。北朝鮮の言語学・言語政策については、1980年代以降の韓国を中心として実証研究が蓄積されてきた。これらは主として言語学に関連した学術論文・単行本(以下「言語学テキスト」)の内容分析に集中する傾向があり、政治文化史的な探求が弱いという特徴があった。国内の研究者では、一部の個別論点では深められているが、断片的な業績にとどまっていた。全体的な傾向として、脱冷戦期の1990年代をピークに研究の勢いがおさまりつつあった。

そこで、先行諸研究が言語規範化の個別論点を明らかにするのにとどまっていた段階から、それらをつなぐ全体的な像を、新資料の積極的発掘に基づき、マクロ・ミクロの両視点から描き出す必要があった。北朝鮮では、ソ連を中心とした体制において、そして独自路線を歩み始めたあとも、言語が民族国家(nation-state)樹立において本質的な一要素となった。したがって、体制形成期の北朝鮮の言語に関わる問題を、言語学的な関心からのみ位置づけては分からず、それ自体をひとつの政治文化史(Political-cultural history)として構築する必要があった。すなわち、言語学テキストだけ、あるいは政治史的な資料だけを見ては全体像を把握し得ない、言語と民族・国家との密接不可分な関係を実証的に明らかにしなければならなかった。

2. 研究の目的

以上の背景を踏まえ、本研究は、体制形成期(1945年~1960年代)の北朝鮮における言語規範化をめぐる政治文化史的研究をおこなった。ここで政治文化史とは、学問を文化のなかに位置づけてとらえたうえで、その文化と政治との関係を歴史的に研究することを言う。すなわち、本研究は、日本の支配から脱した北朝鮮において、ソ連から強く影響を受けた時期を経て、金日成を中心的な権威に据えた言語学および言語政策が形成されていく過程(これを<主体化>と呼ぶ)を、マクロとミクロの両視点から、そして学問と政策・政治の両面から明らかにすることを目的とした。

より具体的にいえば、本研究は、1945年から1960年代末にかけての体制形成期の北朝鮮における言語学および言語政策について、次の2点に焦点を絞って明らかにした。

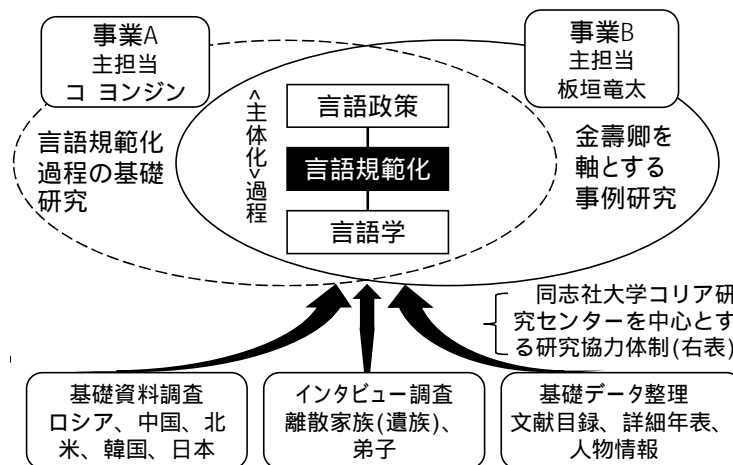
事業(A)：言語規範化は、言語学という学問と、一般大衆にも影響を及ぼす言語に関わる政治・政策(以下これを「言語政策」と呼ぶ)とを橋渡しする役割を果たしている。本研究は、正書法の策定、規範文法の構築、辞書編纂(および関連する「言語浄化」事業)の3要素を言語規範化の中心に位置づける。そのうえで本研究は、言語学者らが言語規範化にどのように関わったかという側面と、北朝鮮の政治・社会のなかで言語規範化がどう位置づけられどのように進められたかという側面の、2面から言語規範化における<主体化>プロセスを明らかにする。

事業(B)：上記のプロセスで中核的な役割を果たした言語学者として位置づけられる金壽卿(キム・スギョン)について総合的に研究する。金壽卿は正書法の原則確定、世界の言語学理論を背景とした規範文法の体系樹立、スターリン理論に関わる最新の動向の紹介、高等・中等学校における文法教育体系の樹立といった幅広い領域で基礎を作った人物である。また、金科奉とも近い関係にあったため、政治的な激動にも巻き込まれた。金壽卿を軸にすえて政治文化史を構築することによって、言語規範化と<主体化>のプロセスが鮮やかにかつ幅広く見えてくる。

3. 研究の方法

本研究は、体制形成期の北朝鮮における言語規範化についての基礎研究(事業A)と、その過程で中心的な役割を果たした言語学者である金壽卿を軸にした事例研究(事業B)とを

有機的に組み合わせて進めた。研究方法としては、各国に散らばる基礎資料（単行本、雑誌記事、新聞記事）の調査、言語学者の離散家族や弟子に対するインタビュー調査、それらを総合したデータ整理（文献の電子化、目録整理）を共同でおこないながら、事業 A・B を分担して進めた。



4 . 研究成果

事業 A については、長年の研究蓄積をまとめあげ、公表する作業が一挙に進行した。論文・講演などを通じて、1945 年以降の北朝鮮の識字運動、漢字撤廃、正書法改革、言語浄化が一続きのものであり、したがって総体的に見る必要があるということが明確になった。あとはこれをまとめて 1 冊の書物として刊行する作業だけが残った。

事業 B については、論文・講演を積極的におこなったほか、金壽卿を中心に据えた「全体史」の単著原稿がまとまった。学術史（言語学史）、政治史（北朝鮮史）、個人史（離散家族史）が有機的に結合した新しい評伝の原稿ができており、あとは出版社と調整のうえ、出版するのを待つばかりである。

この過程で、『労働新聞』の欠落分の収集を進め、これまで海外から集めた 1946 年から 1969 年までの号の電子化作業を完了した。また、同志社大学コリア研究センターのコンツェーヴィチ文庫を中心に北朝鮮の言語学資料（雑誌・単行本）の電子化を進め、クラウドを利用して共有可能なものとした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Ryuta Itagaki	4. 巻 28(3)
2. 論文標題 Das japanische Kaiserreich in den Tagebuchaufzeichnungen dreier "gewöhnlicher Koreaner"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Comparativ	6. 最初と最後の頁 50-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ryuta Itagaki	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 Language and Family Dispersion: North Korean Linguist Kim Su-gyeong and the Korean War	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cross-Currents (Print Journal)	6. 最初と最後の頁 151-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/ach.2017.0006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ryuta Itagaki	4. 巻 22
2. 論文標題 Language and Family Dispersion: North Korean Linguist Kim Su-gyeong and the Korean War	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cross-Currents (E-Journal)	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 6件／うち国際学会 9件）

1. 発表者名 Ryuta Itagaki
2. 発表標題 Imagination beyond the Historical Walls
3. 学会等名 International Conference on the 60th Anniversary, Korean Society for Cultural Anthropology (Jun 9, 2018; at Seoul National University, Korea) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuta Itagaki
2. 発表標題 Everyday Politics of Locality: Experiences of Personal Relationships between a Korean School and its Neighborhood in Kyoto
3. 学会等名 4th TUDOKU Conference 2018 (Sep 6, 2018; at Faculty of Humanities, Eberhard Karls University of Tuebingen, Germany) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuta Itagaki
2. 発表標題 [コリア語]分断された家族、共有された記憶：越北言語学者金壽卿とその離散家族の記憶と記録
3. 学会等名 Critical Global Studies Institute Colloquium (Nov 29, 2018; at Sogang University, Korea) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 コ ヨンジン
2. 発表標題 北朝鮮の言語政策
3. 学会等名 日朝学術研究会第14回例会(2018.11.16; 於・同志社大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 コ ヨンジン
2. 発表標題 草創期の北朝鮮における言語政策
3. 学会等名 韓国全南大学BK21プラス地域語基盤文化価値創出人材養成事業団(2019.1.17) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryuta Itagaki
2. 発表標題 Of Grammatology in North Korea, 1945-58
3. 学会等名 Conflict, Justice and Decolonization Lecture & Workshop Series, at National Chiao Tung University (Taiwan), June 3, 2017. (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ryuta Itagaki
2. 発表標題 Divided Family and Shared Memories: Entangled Life Histories of a North Korean Linguist Kim Su-gyeong and His Family
3. 学会等名 Transnational Cultures: Colonialism and the Cold War in Japan and Korea, The 3rd TUDOKU Conference, at Doshisha University, September 29, 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 コ ヨンジ
2. 発表標題 【コリア語】再び韓国における「言語的近代」について
3. 学会等名 釜山大学校人文学研究所・釜山大学校人文情報学センター、2017年6月23日、釜山大学校人文大学教授研究棟209号(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板垣竜太(ハングル表記)
2. 発表標題 解放前後金壽卿の研究業績とその活動(コリア語)
3. 学会等名 国語学会(韓国)第43回全国学術大会(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ryuta Itagaki
2. 発表標題 From Stalin to Kim Il Sung in Linguistics: Theoretical Authority and Language Reform in North Korea
3. 学会等名 The 2nd TUDOKU Conference, "The Sacred and the Secular: Power and Authorities in Modern East Asia" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 言語学と政治：北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の言語政策における金ドゥ奉と金壽卿の役割を中心に
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西西部会2017年1月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 コ ヨンジン (ハングル表記)
2. 発表標題 北朝鮮における言語ナショナリズム (コリア語)
3. 学会等名 国際シンポジウム「『国語』の思想と実際」(延世大学校言語情報研究院・言語研究教育院・近代韓国学研究所共催)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 板垣竜太	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Seoul: 国史編纂委員会	5. 総ページ数 235
3. 書名 「植民地期朝鮮の民衆日記を読むということ：理論および方法論に関する基礎研究」, 『日記で歴史を読む』, pp.33-113	

1. 著者名 コ ヨンジン	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Seoul: ポゴ社(Pogo-sa)	5. 総ページ数 253
3. 書名 [韓国語]「草創期北韓言語政策研究のために」, 韓国全南大学BK21プラス地域語基盤文化価値創出人材養成事業団『世界の韓国文学と言語学研究の現況と課題』	

1. 著者名 板垣竜太・鄭昞旭(共編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日記からみた東アジアの冷戦	5. 総ページ数 316
3. 書名 同志社韓国研究センター	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高 榮珍 (Ko Young Jin) (90329954)	同志社大学・グローバル地域文化学部・教授 (34310)	